

令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議 (仙台区域)

日 時 令和2年1月30日(木)
午後5時30分から午後7時00分まで
場 所 行政庁舎4階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 外来医療計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

(2) 具体的対応方針の再検証等について・・・・・・・・・・資料2

(3) その他

4 報 告

宮城県地域医療構想推進支援事業について・・・・・・・・・・資料3

5 閉 会

< 配 付 資 料 >

(資料1-1) 宮城県外来医療計画(最終案)の概要

(資料1-2) 宮城県外来医療計画(最終案)

(資料1-3) 宮城県外来医療計画(中間案)に対する関係機関・団体からの御意見等, それに対する県の考え方及び最終案への反映状況

(資料2-1) 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について

(資料2-2) 地域医療構想の実現に向けた重点支援区域の選定について

(資料3) 再編統合等を検討する公立病院への支援について

令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議
(仙台区域) 出席者名簿

【委員】

(順不同・敬称略)

分野	No	氏名	所属	備考
医師会	1	橋本省	宮城県医師会 副会長	副座長
	2	永井幸夫	仙台市医師会 会長	座長
	3	熊谷明	亶理郡医師会 会長	
	4	真嶋光	岩沼市医師会 会長	
	5	丹野尚昭	名取市医師会 会長	欠席
	6	赤石隆	宮城県塩釜医師会 会長	
	7	新海準二	黒川医師会 会長	
歯科医師会	8	小菅玲	仙台歯科医師会 会長	
	9	遠藤裕三	岩沼歯科医師会 会長	
	10	郷家敏昭	塩釜歯科医師会 会長	
薬剤師会	11	北村哲治	仙台市薬剤師会 会長	
	12	森建夫	岩沼薬剤師会 会長	
	13	吉田平太郎	塩釜地区薬剤師会 会長	
	14	笠原純子	黒川薬剤師会 会長	
看護協会	15	鈴木佐紀	宮城県看護協会 仙台南支部 理事	
病院	16	富永悌二	東北大学病院 院長	
	17	上之原広司	国立病院機構仙台医療センター 院長	
	18	永野功	国立病院機構宮城病院 院長	
	19	近藤丘	東北医科薬科大学病院 院長	
	20	内藤孝	坂総合病院 院長	代理:富山陽介 副院長
	21	奥田光崇	仙台市立病院 院長	
保険者	22	後藤善征	全国健康保険協会宮城支部 企画総務部長	
	23	山崎敏幸	宮城県国民健康保険団体連合会 常務理事	
保健所	24	下川寛子	仙台市健康福祉局 次長兼保健所長	欠席
	25	櫻井雅浩	宮城県塩釜保健所 所長	

【地域医療構想アドバイザー】

氏名	所属	備考
藤森研司	東北大学 大学院 医学系研究科・医学部 教授	
石井正	東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授	
橋本省	宮城県医師会 副会長	再掲

【事務局】

氏名	所属
佐々木真	宮城県 保健福祉部 医療政策課長
遠藤圭	同 同 医療政策課 医療政策専門監
日野貴広	同 同 主幹(企画推進班長)

1. 開 会

○司会

ただいまから令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議仙台区域を開催する。

2. 挨拶

○司会

開会に当たり、県保健福祉部医療政策課長の佐々木からご挨拶を申し上げます。

○佐々木保健福祉部医療政策課長

【挨拶】

3. 議 事

○司会

本日の調整会議の座長は、仙台市医師会永井会長にお願いしている。

○永井座長

それでは、次第に従い議事を進める。(1)外来医療計画について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○永井座長

では、ただいまの説明について質問等があればお願いします。

特にないようなので、項目(1)についてはこれで終了とする。

続いて、(2)具体的対応方針の再検証等について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

【説明】

○永井座長

では、ただいまの説明について質問等があればお願いします。

○永野委員

仙南区域と石巻・登米・気仙沼区域について、重点支援区域の申請をしたとの説明があったが、重点支援区域でなければ財政的支援や技術的支援は受けられないのか。

○事務局

重点支援区域でなくても支援は受けられる。国からは、重点支援区域については、支援を手厚くするとの説明を受けている。

○永野委員

当院は、具体的対応方針の再検証等が必要な病院として名指しされているが、院内での検討や設置母体である国立病院機構本部との協議を始めており、病床ダウンサイジングや転換等について具体案を考えている。先ほどの説明の中で、期限があいまいになったとの話があったが、今後のタイムスケジュールをどう考えているのか教えてほしい。

また、財政的支援についてだが、何らかのタイムリミットがあるとの話もある。これまでは、変更しない場合は3月までに、変更する場合は9月までに調整会議での合意が必要であったが、これがあいまいになったこともあり、今後、具体的に進めるにあたってのインセンティブや財政的支援をどう進めるのかなどが見えなくなっている。今時点の情報で何かあれば教えてほしい。

○事務局

国の骨太の方針が6月頃に示されると、今後のスケジュールや進め方が分かってくる。重点支援区域の病院や名指しされた病院においては、今後の在り方について御検討のところかと思うが、引き続き個別に相談させていただきながら状況の確認に努めてまいりたい。また、国の具体のスケジュール等を踏まえて、調整会議に反映させていきたい。

国の支援メニューについては、2025年が一つの目標時期となることは変わらず、令和3年以降も消費税財源の活用を検討しているとの説明を受けている。いつまで続くか、どう変わっていくかは分からないが、今後の国の説明会等で情報収集しながら皆様に共有してまいりたい。

○永野委員

今後も県と協議してまいりたい。どうぞよろしく願います。

○赤石委員

重点支援区域に申請した区域は、医師の少ない区域に該当するかと思う。その区域において、病床ダウンサイジングするというのは、偏在の解消という意味では矛盾するのではないか。

また、財政的支援については、ダウンサイジングするための財政的支援と聞こえたが、それではますます偏在が進むのではと危惧するがどうか。

○事務局

本日紹介したのは、新しい支援メニューのみである。これまで県が行っているメニューとしては、急性期から回復期への転換に必要な経費の補助が実績としてある。既存のメニューも含めて、地域で必要な機能への転換等をしていただきたい。

また、医師確保の厳しい地域でのダウンサイジングについてお話があったが、今回名指しされた病院の稼働率の状況や地域ニーズに合致した対応の検討は個々に進めている。そうした地域の実情に応じた検討と合わせて先々の姿を重点支援区域の中で相談しながら最終的な形を探してまいりたい。医師確保、必要な病床機能、看護師も含めたスタッフの確保など様々な要素が関係するが、先々にどう維持できるかを相談

してまいりたい。

○永井座長

石巻・登米・気仙沼区域では、震災以降に新しく作った病院について、その在り方を協議している。これについて事務局から何かあるか。

○事務局

地域の中で慢性期が足りないのではないかと考えて設置されたと聞いている。一方で、医師確保の話や稼働率の状況もある。市として、病院事業をどう安定的に維持していくかという視点で、内部で会議を開きながら検討している。重点支援区域を活用しながらどのように具体の形に繋げるか、また、新たに作った病院の在り方も含めて検討していくことになる。

○後藤委員

医療保険者の立場から意見を申し上げる。

協会けんぽの全国平均の健康保険料率は、10%を維持している状況であるが、宮城支部の健康保険料率は平成30年度から10%を越えており、事業主や加入者の負担は限界に近づいている。保険料を支払っている事業主や加入者がいることを忘れずに、また、医療保険者の財政状況は今後かなり厳しくなることが想定されていることを御理解いただいた上で、この議論を進めていただきたい。

続いて、本日の資料の2-1についてであるが、再検証対象医療機関に関する具体的方針の再検証について、国から要請され、この調整会議で協議していくこととなっている。その際、民間医療機関の参加も得ながら議論を進めることや、再検証対象医療機関については、改めてこの調整会議で合意を得ることなどが挙げられている。国から示された再検証対象医療機関のデータや民間病院のデータの活用方法、民間医療機関の参加も含めて、どのように今後の議論を進めていくのか、県の考え方をお聞かせいただきたい。

最後に、以下の2点を要望したい。

地域医療の現状、医療のかかり方や医師の働き方等について、マスコミ、県や市が発行している広報誌など、あらゆる広報媒体を活用して広報していくことで、関係者間だけで議論をするのではなく、県民を巻き込んだ議論に発展することを期待したい。地域医療の現状をより理解していただくために、他県でも実施している、県民に対するアンケートの実施や意見交換の場を設けることが良いと思うので、検討をお願いしたい。

2点目だが、自治体の枠を超えて再編統合や機能分化等の調整が必要な場合は、二次医療圏ごとの調整会議だけで完結するのが難しいと思われることから、県全体での調整会議の設置が必要かと思うがどうか。

○事務局

まず、民間医療機関も含めた議論については、当然、地域医療全体での話になってくるので、この調整会議においても民間の病院も含めて議論しているところである。引き続き、地域の課題解決を相談してまいりたい。

医師の働き方改革など様々な情報について、地域の方々に共有・周知しながら進めるべきとお話については、今年度、広報チラシの作成などを行っているところであり、そうしたものを活用しながら、地域課題の共有に努めてまいりたい。

自治体の枠を越えての再編統合等については、現在、4つの区域でこの会議を開催しており、地域ごとの対応を進めているところである。県全体の調整については、医療審議会や救急・小児・周産期など医療分野ごとの政策医療の会議がある。そうした会議において県全体の課題調整を進めてまいりたい。

○永井座長

永野委員に伺いたい。病院によってそれぞれ状況が異なると思うが、今回名指しされた病院の中で、とある病院では風評被害と職員の盗用があったとお聞きした。国立病院機構宮城病院ではどうか。

○永野委員

9月に公表された後、厚生労働省の職員による東北地方での意見交換会があり、その中で、ある福島の病院で看護師の引き抜きがあったとの話が出された。

当院の風評被害については、外来の患者から、「病院が無くなるのか」、「どこかへ移転するのか」といった質問が出されたため、説明文書を作成し病棟や外来に掲示するなどの対応をした。

職員については、内容の説明をしたところ、国立病院的なマインドなのか職員の動揺はないと感じた。国立病院機構となったが、元々国の病院だったという意識を持っているからかもしれない。

本日、熊谷委員がいらっしゃるが、近隣の先生方や医師会の先生方については、信頼していただいていると思っている。

○永井座長

ほかに質問等がなければ、項目（2）についてはこれで終了とする。

続いて、（3）その他、皆様から何かあるか。

ないようなので、これで終了とする。

4. 報告

○永井座長

続いて、宮城県地域医療構想推進支援事業について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

本事業は今年度新たに実施したものであり、各医療圏の概況をまとめることと、個別の公立病院のコンサルティング支援を行うことを目的としている。株式会社日本経営及び七十七銀行に委託しており、資料の詳細については、後ほど株式会社日本経営から説明いただくが、まずは、概要について事務局から説明する。

【説明】

○株式会社日本経営

【説明】

○永井座長

ただいまの説明について質問等があればお願いします。

○赤石委員

資料23頁のグラフで、番号のない青い点は何を示しているのか。

○株式会社日本経営

番号のない青い点は、仙台医療圏以外の病院を示している。

○赤石委員

青い点、すなわち仙台医療圏以外の病院群が患者数と医師数のバランスが取れている線の上によく乗っており、仙台医療圏の病院群がこれから離れているのは何か理由はあるのか。

○株式会社日本経営

ピンクの点は、仙台医療圏内の病院を、青い点は仙台医療圏以外の病院を示している。仙台医療圏以外では、石巻赤十字病院や大崎市民病院のようにある程度救急の集約が由来しているので、予測値の真上に乗るような傾向にあるかと思う。

○永井座長

ほかに質問等がなければ、項目4についてはこれで終了とする。

ほかに、皆様から何かあるか。

地域医療構想アドバイザーの藤森先生から何かあるか。

○藤森地域医療構想アドバイザー

仙台医療圏は宮城県の中でも、最も医療が充実しており、大きな課題がなく安心している。赤石委員からお話があったように、同じ医療圏の中でも地域によって相当な差があるのは事実である。また、医師の偏在指標については、診療所の先生方の偏在指標であり病院の医師は入っていないので、それを入れると更に差が広がるどころと縮まるところと色々であり、より細かい議論が必要かと思う。是非お手伝いさせていただくので、よろしく願いしたい。

○永井座長

石井先生から何かあるか。

○石井地域医療構想アドバイザー

まだまだ勉強不足なので、勉強しながら皆様のお役に立ちたいと考えている。どうぞよろしく願いしたい。

○永井座長

もう一人のアドバイザーの橋本副座長については、別の会議のため中座されたが、特に意見はないとのことであった。

事務局から何かあるか。

○事務局

本日の会議資料及び議事録については、後日県のホームページに掲載する予定なので、了承願う。

○永井座長

皆様の協力で無事調整会議を終了することができた。司会進行を事務局に返す。

4. 閉 会

○司会

以上をもって、令和元年度第2回宮城県地域医療構想調整会議仙台区域を終了する。